

地域農業活性化のため建設業が農業参入に挑戦！

(土屋建設株式会社)

＜法人の概要＞ 所在地：静岡県伊豆の国市
設立：昭和21年10月（創業昭和6年）
資本金：4,500万円 売上高：26億4,300万円（平成26年5月期）
（うち農業及び農業関連事業：1,375万円）
役員：8名（うち農業従事者2名）
従業員数：常時雇用者49名（うち農業従事者3名）、臨時雇用者2名
経営面積：3.4ha（静岡県伊豆の国市）
営農作物：露地野菜（大根、スイカ等）
農業開始時期：平成23年7月



農作業の様子



法人経営圃場

＜農業参入に至った経緯・動機＞

- ・地域に根ざした建設土木業会社として経営。
- ・平成22年に開催された建設業協会と県農林事務所の交流会の席上、東部農林事務所長から「企業の農業参入」の提案を受けた。
- ・昨今、建築需要が減少する中、特に農村の疲弊による基盤整備需要減少から、自ら農村の活性化と地域産業の振興を行うことで企業としての存続を図り、「農村の疲弊を建設業が支えるモデル」を確立するため、農業に参入。

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

- ・作物選定に当たっては、社長の地域農業の下支えをしたいとの思いから、伊豆の国市田中山地域の特産である大根やスイカなどに決定。
- ・農地の確保については、知人から田中山地域の農地約90aを借入れ、営農開始。
- ・当初借入農地のうち70aは耕作放棄地であったが、自社重機械やオペレーター、枝打ちチップ等を活用して解消。獣害被害防止柵も自社で溶接金網を作製、設置するなど建設業の技術を活用した。

<営農開始から現在まで>

- ・栽培技術については、JA・農林事務所職員や地元農家より師事を得ており、系列会社において地域の農業者を 2 名雇用している。
- ・地域の特産である大根やスイカ栽培をはじめ、60 種程度の露地野菜やその他機能性の高い野菜など多種多様な品種を栽培。
- ・販路については、宅配サービスの実施、JA 出荷、ゴルフ場（景品セット）や食料品店、地元八百屋等への販売の他、地元イベントでの販売や会社敷地内に販売スペースを確保するなど、主として地元消費シェアの拡大を目指している。
- ・自社が田中山地域の圃場で生産する農産物を総称し、自社ブランド「ろっぼう野菜」として販売。ロゴマークを作成するなど、安心・安全・新鮮をアピール。
- ・市商工会と連携し「赤い野菜」をテーマとした品種選択や商品開発の実施、漬物加工（ろっぼう漬け）等の 6 次産業化も行っている。
- ・農業部門自体の収支については現時点で黒字には転換していないが、元々地域貢献に主眼を置いており、地域からの期待も大きい。

<今後の農業経営の展開方向>

- ・自社単独での将来像ではなく、地域全体をイメージし、地域農業の下支えとなる農業経営体を模索している。
- ・地域全体として田中山大根の生産拡大を目指し、安定した生産量を確保することと近隣の農家の販売も請負う体制を構築することにより、田中山ブランドを普及したい。
- ・加えて、収穫体験や市民農園など都市農村交流の推進により、高齢化の著しい田中山地域を活性化したい。

<今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス>

- ・参入企業の本業や動機は十人十色であり、イメージする農業参入モデルに近い農業参入モデルを実現している企業を視察すること。
- ・一度地域に入れば撤退はしないとの責任をもって参入する意識を持つこと。



法人事務所駐車場スペースを活用して販売



ロゴマーク